



横浜市立釜利谷東小学校

9月号

# 学校便り

TEL 045-783-9398 FAX 045-701-9817

平成30年8月31日

ひがしの願い

ひとつの命

がんばる心

しんじあう仲間

## 言葉でつながる・気持ちでつながる

校長 許斐 真也

40日近い「平成最後の」夏休みが終わり、子どもたちがひと回り大きくなって、学校に戻ってきました。厳しい残暑が続きますが、この先区切りとなる、冬休みまでの約4か月間、楽しく充実した学校生活を過ごすことができるよう尽力してまいります。引き続きご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、夏休み中に、本校の子どもたちに関する嬉しいお話をいただきました。いずれも「あいさつ」についてです。1つ目は、学校に出入りの業者の方からでした。その方は校庭の遊具下に芝生を張る作業のためにお越しくださっていました。その時に、はまっ子や水泳教室に来ていた子が、よくあいさつをし、芝生について興味深げに見ながらあれこれと質問をしてきた、ということです。「人懐こく、礼儀正しい子どもたちですね。」と感心されていました。

もう1つは、金沢区のはまっ子ドッジボール大会の時に、本校の子どもたちは試合開始、終了時のあいさつがとてもしっかりしていると他校の指導者から言われたということです。知り合いだけでなく、自分と関わりがある人に対して積極的に声をかけ、つながりを深められたことが大切だと思います。

また、7月12日に内モンゴルの子どもたちとの交流会を実施しました。内モンゴルの子どもたちは日本語はもちろん、英語もほとんど話すことができません。我々大人は子どもたちがどのようにコミュニケーションをとるか興味深く見ていました。大人の発想だと「中国語」や「モンゴル語」を調べて片言でも話してみ、漢字で筆談してみる、などが思い浮かびますが、何人かの子どもは、素晴らしいことに、豊かな表情やジェスチャーなどを用いて、遠慮などすることなく、積極的に思いや考えなどを伝えようとしていました。気持ちが通じ合えば交流はどんどん進みます。給食や遊びなども含めた楽しい交流の後、内モンゴルの皆さんは、幹線道路から貸し切りバスで帰路につきましたが、仲よくなった本校の子が、涙ぐみながら手を振り、内モンゴルの子どもたちを見送る姿もありました。言葉はなかなか通じなくても、気持ちが通じればつながりを作ったり、仲よくなったりすることは決して難しいことではないことを改めて感じました。

12月下旬までは、学習はもちろん、各学年、全校での行事など、1年の中でも特に多様な教育活動が実施される4か月間です。子ども一人ひとりの資質・能力を伸ばすことはもちろんのこと、気持ちがつながった上で、お互いをまるごと受け入れ、共に伸びていこうとする集団を育てることも大切にしていきたいと思っております。